

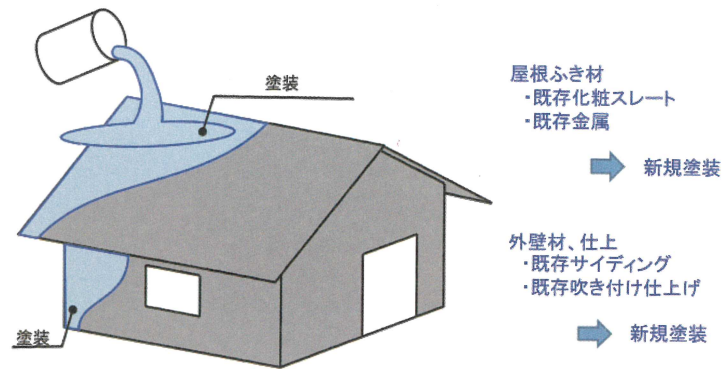
屋根と外壁を改修するには①塗り替え②カバー工法③撤去ふき替えの三つの方法があります。

木造（住宅）

①  
塗り替え

外装材の劣化が比較的進行していない場合。

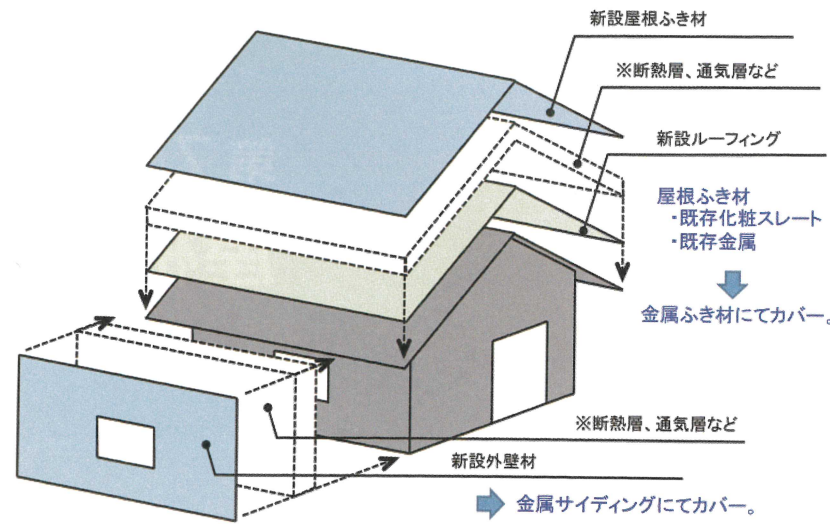
比較的安価に手軽に改修可能。



②  
カバー工法

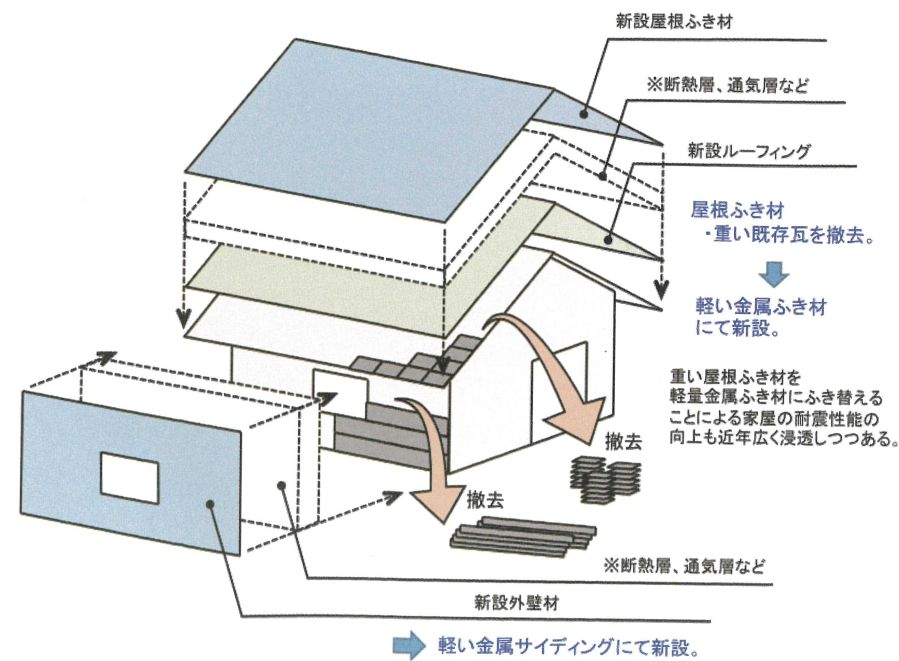
既存の外装材を撤去せずに新設の軽量外装材でカバーする工法。

新設カバーによって既存の外装材は風雨、日射紫外線から守られるため、それ以上の劣化の進行を抑止する効果も期待できる。



③  
撤去、ふき替え

既存の外装材を撤去し、新たに外装材を新設する。

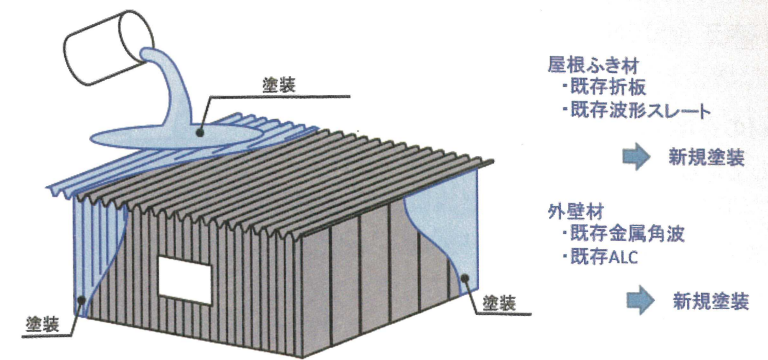


鉄骨造

①  
塗り替え

外装材の劣化が比較的進行していない場合。

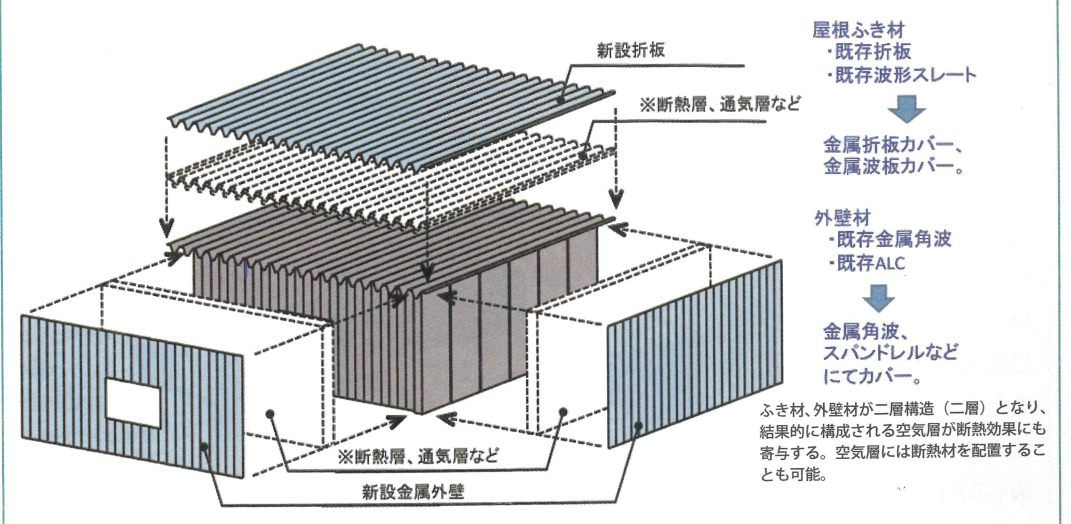
比較的安価に手軽に改修可能。



②  
カバー工法

既存の外装材を撤去せずに新設の軽量外装材でカバーする工法。

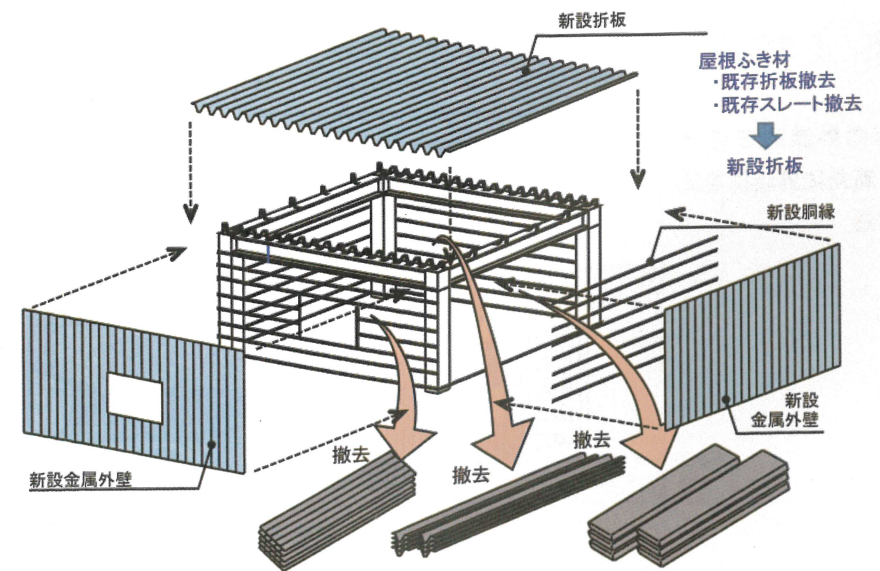
新設カバーによって既存の外装材は風雨、日射紫外線から守られるため、それ以上の劣化の進行を抑止する効果も期待できる。



③  
撤去、ふき替え

既存の外装材を撤去し、新たに外装材を新設する。

鉄骨造の場合では建物を使用しながらの改修が困難な場合も多く、あまり例はない。



RC造	
<p>① 塗り替え</p> <p>外装材の劣化が比較的進行していない場合。</p> <p>比較的安価に手軽に改修可能。</p>	
<p>② カバー工法</p> <p>既存の外装材を撤去せずに新設の軽量外装材でカバーする工法。</p> <p>新設カバーによって既存の外装材は風雨、日射紫外線から守られるため、それ以上の劣化の進行を抑止する効果も期待できる。</p>	
<p>③ 撤去、ふき替え</p> <p>既存の外装材を撤去し、新たに外装材を新設する。</p>	

## 7.1 金属屋根を改修する

鋼板製屋根・壁の改修の考え方については、MSRW2014に記載しています。図7.1.1は性能水準の設定、調査・診断の方法、改修設計について要点をまとめています。

### (1) 性能水準の検討

改修する目的が新築時の機能と同水準にするのか、新たに設定する基準（長寿命化・意匠性の向上・室内環境の改善・環境対策・建物の用途変更）にするのかを取り決める必要があります。顧客のニーズに合わせた改修提案が必要になります。

### (2) 調査・診断

改修計画の作成に先立って、既存外装材の劣化程度やその外装材が取り付けられている下地の状態（下地の板厚や形状、取付ピッチ等）を調査・診断する必要があります。原則は現地での調査を実施することが望ましいといえます。また調査・診断時には予備調査と本調査になる場合があります。予備調査とは外装材の劣化判断などが該当し、本調査は、下地の具合や必要に応じて下地の固定強度の確認試験などを含んだ総合的な調査になります（詳細はMSRW2014の4.2改修の流れ参照）。

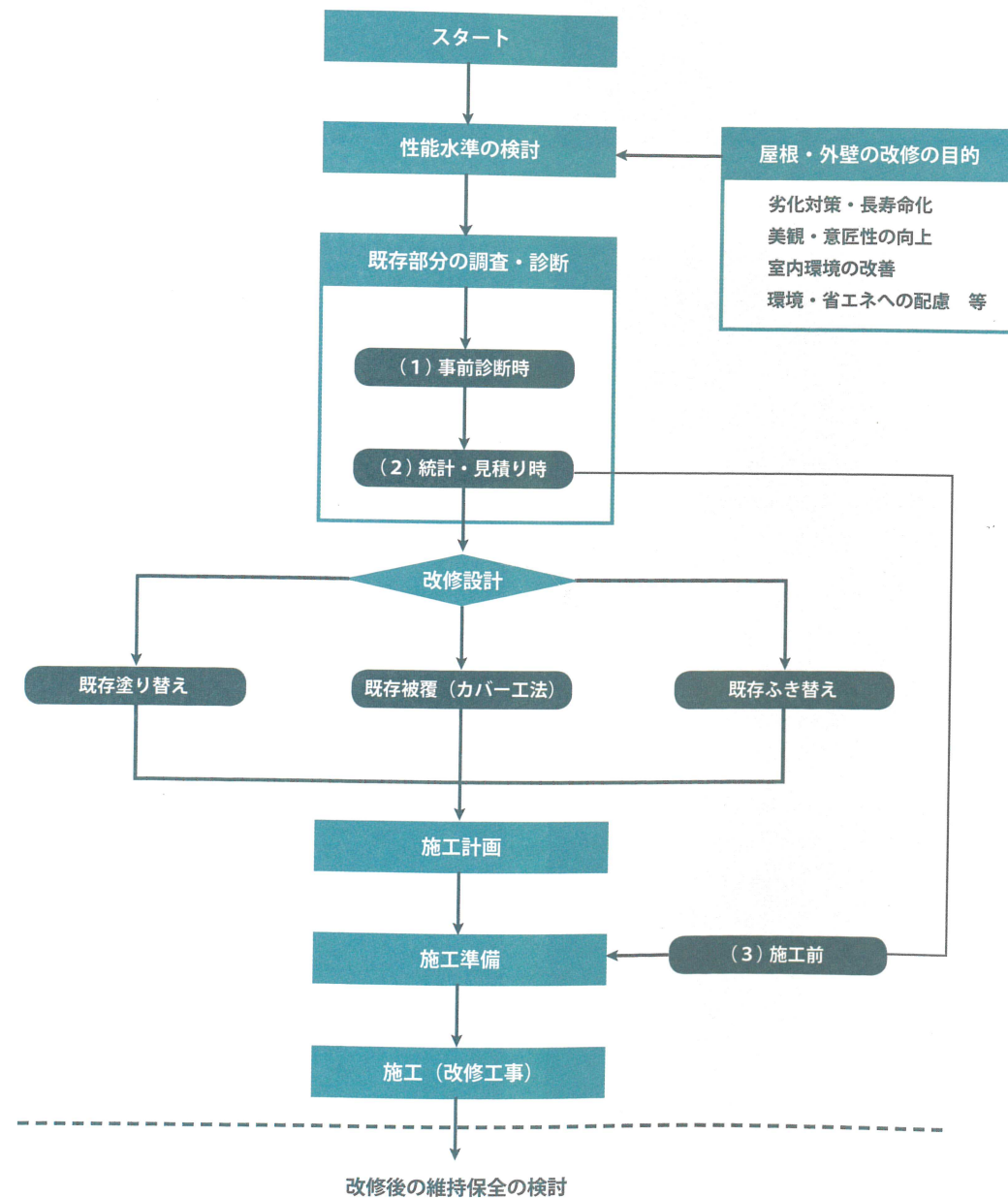


図7.1.1 鋼板製屋根・壁の改修の考え方フロー (MSRW2014)